

日本史授業プリント近世24(070) 江戸後期の文化(3) 蘭学

3年[]組[]番[]

蘭学の発達 ※名称…₁蛮学(“南蛮”から) →₂蘭学(オランダ中心) →₃洋学(幕末:英仏も加わる)

☆西洋人の来日 <例>₄ケンペル・₅ツンベルグ・シーボルトら →帰国後、日本を紹介
..... 1775. 来日 スウェーデンの医師・植物学者 『日本植物誌』
..... 1690. 来日 ドイツ人医師 『₆日本誌』(付録に「₇鎖国論」…志筑忠雄が翻訳)

[I] 『解体新書』(1774)以前…蘭学の誕生前夜

吉宗の実学奨励 西川如見(天文学者・長崎通詞『華夷通商考』1695)を招く 漢訳洋書の輸入制限緩和(1720)
青木昆陽(儒学)・野呂元丈(本草学)にオランダ語を学ばせる

古医方…漢方医学に漢代の臨床重視の医学 ₈山脇東洋 『₉_____』(1759)…日本初の解剖記録
名古屋玄医(-1696)・吉益東洞(-1773)ほか

[II] 蘭学の誕生と発展: 18世紀後半~19世紀初

☆₁₀_____ (1728-1780)…₁₁本草学者(『物類品鑑』)他にも様々な分野で活躍
<例>₁₂エレキテル・寒暖計・石綿(火浣布)・洋画・鉾山開発(秋田藩など)・滑稽本・浄瑠璃脚本 等々

(A) 医学・語学

『₁₃_____』1774…『₁₄ターヘル・アナトミア』の翻訳 西洋医学の紹介
₁₅_____・₁₆_____・₁₇中川淳庵・₁₈桂川甫周ら
..... 苦心談→のち『₁₉蘭学事始』1815 ツンベルグと交流
₂₀_____…医師 玄白・良沢の弟子 私塾 ₂₁_____ [江戸]1786
『₂₂蘭学階梯』1788…蘭学史とオランダ語入門 ₂₃オランダ正月(太陽暦での新年会)
→弟子₂₄_____…医師 『₂₅_____』1796. 初の蘭日辞典 「江戸ハルマ」
※「₂₆長崎ハルマ(ズーフハルマ)」…1816. オランダ商館長ズーフが編纂
₂₇_____…甫周の弟子 『₂₈西説内科撰要』(1792. 翻訳)
₂₉華岡青洲…全身麻酔による世界初の乳ガン手術に成功(1805) 吉益東洞の弟子

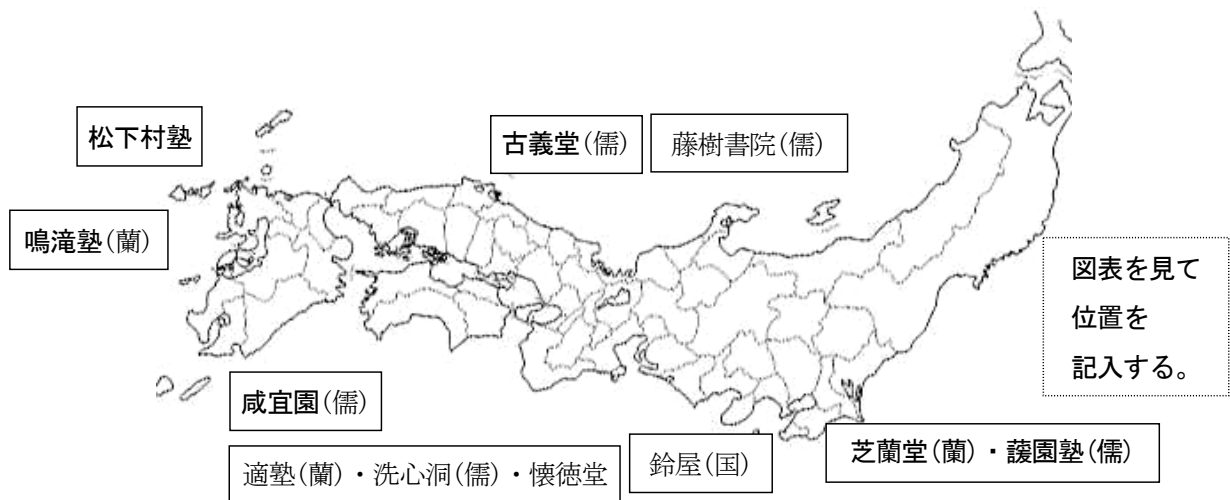
(B) 天文学・暦学・測量

₂₉本木良永(通詞)…『₃₀和蘭地球図説』 『₃₁天地二球用法』(1774) コペルニクスの地動説を紹介
弟子 → ₃₂_____ (通詞)…『₃₄暦象新書』(1802訳)ケプラーの法則やニュートン力学を紹介
₃₆麻田剛立(豊後→大坂:医師) 独学で天文学 日食予測、暦の誤りを指摘、太陽の黒点や月面の観測など
弟子 → ₃₇_____ (幕府天文方)・₃₈間重富 …幕命で ₃₉寛政暦を作成(1797)
弟子 → ₄₀_____ …下総の商人 地理学者 …幕命で全国測量(1800~17)
『₄₁大日本沿海全図』(没後の1821年に完成 軍事的理由で秘蔵)

☆幕府、₄₂蛮書和解御用設置(1811)…翻訳局 ₄₃高橋_____ (至時の子:天文方)の提言で設立
<例>百科事典『₄₄厚生新編』 →₄₅洋学所 →₄₆蕃書調所 →…₄₇開成所

[Ⅲ] シーボルト以後…くりかえされる幕府の弾圧★

- …1823. ⁴⁸シーボルト来日(1823)…ドイツ人医師 帰国後『⁴⁹日本』を著作
⁵⁰_____ [長崎]創設(1824) →高野長英、小関三英、伊東玄朴らを育成
1825. 無二念打払い令
- ▶1828. ★⁵¹シーボルト事件…帰国時に日本地図など所持→国外追放、高橋景保獄死、弟子50人処罰
- …1832頃 ⁵²尚齒会結成[江戸]…儒学者・蘭学者らの会合 当初は天保飢饉の対策などを研究・議論
 <例>⁵³渡辺華山(田原藩家老・洋画家)、⁵⁴高野長英(陸奥出身・町医者)、江川英竜、小関三英
1837. ⁵⁵宇田川榕庵(うだがわようあん)…蛮書和解御用の翻訳員 『⁵⁶舎密開宗(せいみ)』翻訳 化学書 ※舎密は化学(ケミストリ)の訳語
1838. ⁵⁷_____ (⁵⁸適々齋塾) [大坂]…⁵⁹_____ の私塾 →橋本左内, 大村益次郎, 福沢諭吉ら
- ▶1839. ★⁶⁰蛮社の獄…⁶¹鳥居忠耀(ただあき)(町奉行)ら幕府保守派による⁶²尚齒会(蛮社)の蘭学者の弾圧 (→江戸16)
1841. ⁶³高島秋帆(しゅうはん)(西洋砲術)が徳丸ヶ原で練兵(公開演習) ……▶★翌年、投獄・幽閉 (鳥居らによる弾圧)
 弟子▶⁶⁴江川太郎左衛門(伊豆菰山代官)→⁶⁵佐久間象山(しょうざん)(信濃松代：開国論)→吉田松陰・勝海舟
1846. ⁶⁶伊東玄朴(げんぼく)…⁶⁷牛痘の接種に成功 (天然痘の予防) →⁶⁸種痘所設置(1853. 民営) →1860. 幕府に移管
 →⁶⁹医学所(1861)



【正誤問題に挑戦】<センター1994 追試験より>

- X. 志筑忠雄は、『曆象新書』を著して、ニュートンの力学やコペルニクスの地動説を紹介した。
- Y. 大槻玄沢は、『蘭学階梯』を著すなど、蘭学の普及につとめた。

蘭学の発達 ※名称…₁蛮学(“南蛮”から) →₂蘭学(オランダ中心) →₃洋学(幕末:英仏も加わる)

☆西洋人の来日 <例>₄ケンペル・₅ツンベルグ・シーボルトら →帰国後、日本を紹介
..... 1775. 来日 スウェーデンの医師・植物学者 『日本植物誌』
..... 1690. 来日 ドイツ人医師 『₆日本誌』(付録に「₇鎖国論」…志筑忠雄が翻訳)

[I] 『解体新書』(1774)以前…蘭学の誕生前夜

吉宗の実学奨励 西川如見(天文学者・長崎通詞『華夷通商考』1695)を招く 漢訳洋書の輸入制限緩和(1720)
青木昆陽(儒学)・野呂元丈(本草学)にオランダ語を学ばせる

古医方…漢方医学に漢代の臨床重視の医学 ₈山脇東洋 『₉蔵志』(1759)…日本初の解剖記録
名古屋玄医(-1696)・吉益東洞(-1773)ほか

[II] 蘭学の誕生と発展：18世紀後半～19世紀初

☆₁₀平賀源内 (1728-1780)…₁₁本草学者(『物類品隲』)他にも様々な分野で活躍
<例>₁₂エレキテル・寒暖計・石綿(火浣布)・洋画・鉾山開発(秋田藩など)・滑稽本・浄瑠璃脚本 等々

(A) 医学・語学

『₁₃解体新書』1774…『₁₄ターヘル・アナトミア』の翻訳 西洋医学の紹介
₁₅杉田玄白 ・ ₁₆前野良沢 ・ ₁₇中川淳庵 ・ ₁₈桂川甫周ら
..... 苦心談→のち 『₁₉蘭学事始』1815 ツンベルグと交流
₂₀..... 医師 玄白・良沢の弟子 私塾 ₂₁芝蘭堂 [江戸]1786
『₂₂蘭学階梯』1788…蘭学史とオランダ語入門 ₂₃オランダ正月(太陽暦での新年会)
→弟子 ₂₄稲村三伯 …医師 『₂₅ハルマ和解』1796. 初の蘭日辞典 「江戸ハルマ」
※₂₆長崎ハルマ(ズーフハルマ)…1816. オランダ商館長ズーフが編纂
₂₇宇田川玄随 …甫周の弟子 『₂₈西説内科撰要』(1792. 翻訳)
₂₉華岡青洲…全身麻酔による世界初の乳ガン手術に成功(1805) 吉益東洞の弟子

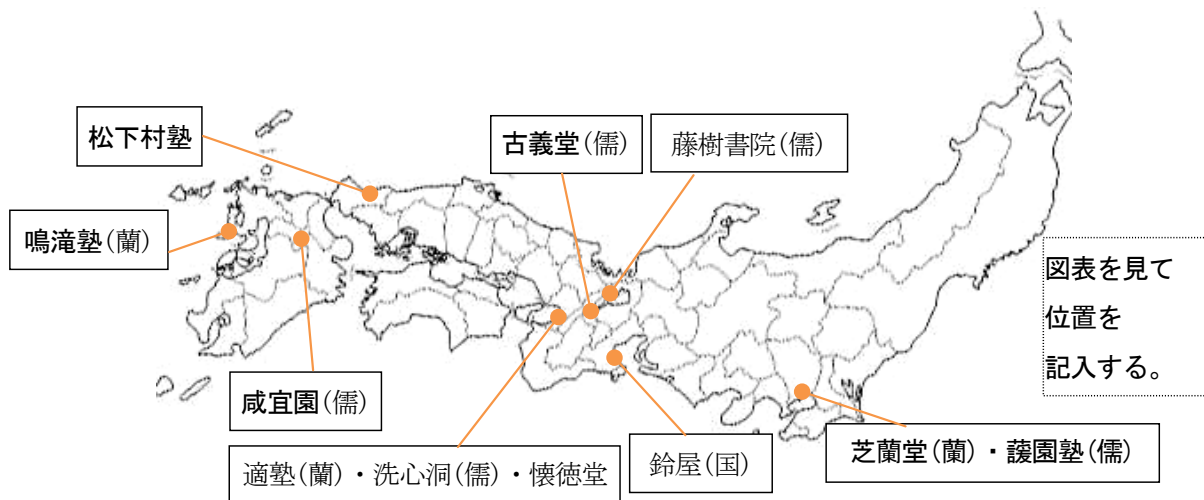
(B) 天文学・暦学・測量

₂₉本木良永(通詞)…『₃₀和蘭地球図説』 『₃₁天地二球用法』(1774) コペルニクスの地動説を紹介
弟子 → ₃₂志筑忠雄 (通詞)…『₃₄曆象新書』(1802訳)ケプラーの法則やニュートン力学を紹介
₃₆麻田剛立(豊後→大坂:医師) 独学で天文学 日食予測、暦の誤りを指摘、太陽の黒点や月面の観測など
弟子 → ₃₇高橋至時 (幕府天文方) ・ ₃₈間重富 …幕命で ₃₉寛政暦を作成(1797)
弟子 → ₄₀伊能忠敬 …下総の商人 地理学者 …幕命で全国測量(1800～17)
『₄₁大日本沿海輿地全図』(没後の1821年に完成 軍事的理由で秘蔵)

☆幕府、₄₂蛮書和解御用設置(1811)…翻訳局 ₄₃高橋景保 (至時の子:天文方)の建議
<例>百科事典『₄₄厚生新編』 →₄₅洋学所 →₄₆蕃書調所 →…₄₇開成所

[Ⅲ] シーボルト以後…くりかえされる幕府の弾圧★

- …1823. 48 シーボルト 来日(1823)…ドイツ人医師 帰国後『49 日本』を著作
- 50 鳴滝塾 [長崎]創設(1824) →高野長英、小関三英、伊東玄朴らを育成
1825. 無二念打払い令
- ▶1828. ★51 シーボルト事件…帰国時に日本地図など所持→国外追放、高橋景保獄死、弟子50人処罰
- …1832頃 52 尚歯会 結成[江戸]…儒学者・蘭学者らの会合 当初は天保飢饉の対策などを研究・議論
- <例>53 渡辺崋山(田原藩家老・洋画家)、54 高野長英(陸奥出身・町医者)、江川英竜、小関三英
1837. 55 宇田川榕庵…蛮書和解御用の翻訳員 『56 舎密開宗』翻訳 化学書 ※舎密は化学(ケミストリ)の訳語
1838. 57 適塾 (58 適々斎塾) [大坂]…59 緒方洪庵 の私塾 →橋本左内, 大村益次郎, 福沢諭吉ら
- ▶1839. ★60 蛮社の獄…61 鳥居忠耀(町奉行)ら幕府保守派による62 尚歯会(蛮社)の蘭学者の弾圧 (→江戸16)
1841. 63 高島秋帆(西洋砲術)が徳丸ヶ原で練兵(公開演習) ……▶★翌年、投獄・幽閉(鳥居らによる弾圧)
- 弟子▶64 江川太郎左衛門(伊豆韮山代官)→65 佐久間象山(信濃松代: 開国論)→吉田松陰・勝海舟
1846. 66 伊東玄朴…67 牛痘の接種に成功(天然痘の予防) →68 種痘所設置(1853. 民営) →1860. 幕府に移管
→69 医学所(1861)



【正誤問題に挑戦】<センター1994 追試験より>

- X. 志筑忠雄は、『曆象新書』を著して、ニュートンの力学やコペルニクスの地動説を紹介した。○
- Y. 大槻玄沢は、『蘭学階梯』を著すなど、蘭学の普及につとめた。○